

第12回資金管理業務諮問委員会 議事概要

1. 日時：2006年1月10日（火）16時～18時15分
2. 場所：財団法人自動車リサイクル促進センター 第1・第2会議室
3. 出席者：永田委員長、辰巳委員、細田委員、松田委員、米澤委員、渡辺委員
4. 議題：①情報管理料金の改定について
②平成17年度第2四半期決算報告について
③平成17年度第2四半期の運用の評価について
④その他
5. 議事概要
※ 本議事概要では委員の主な意見、決定事項を中心にまとめており、資料に関連する質疑については後日、議事録を公表いたします。

（1）議題①について

「情報管理特別会計について」「電子マニフェスト事業の状況と情報管理料金について」「書面利用移動報告事業及び書類等交付事業の状況について」「特定再資源化預託金等について」に関して資料3-1～資料3-4（含む別紙、参考資料）を使用して事務局から説明。資料を修正することに加え、自動車所有者・ユーザー向けのわかりやすい資料を作成した上で、各委員の了解を求めることとなった。

＜意見＞ （注）○は委員、●は事務局

- システムの開発で、当初の想定に比べて大幅に規模が拡大したということか。
- そのとおりである。資料3-2の2ページ記載のとおり、プログラムステップ数でみると、当初想定150万ステップが法施行時には600万ステップとなった。
- 6年目以降に予定していた大幅なシステム改造を前倒ししたとのことであるが、例えば9年目以降にやはり必要になるのではないか。
- 平成16年6月の情報管理料金設定時には、6年目での大幅なシステム改造を想定していたが、現在は日々改良を行っているので、必ず必要とは限らない。
- システム開発規模の10～15%と言われているのは、システム維持・運用費に改良費を加えたものであり、料金設定時の平均5.7%

には改良費は入っていないという理解でよいか。

- そのとおりである。
- 最終的にシステム開発規模が140億円になろうとはわからない時点で料金設定をしたという理解でよいか。
- 平成16年になるまで概念設計に期間を要し、それから急ピッチで開発に拍車をかけた。その時点のデータで導き出された料金が130円である。
- コールセンターのコール数は、2～3年経過すれば減少するのではないか。
- 実態は昨年9月頃より下げ止まり傾向となっている。同種のコールセンターの例を見ても同様である。
- 各法人間の按分比率はどのように設定し、検証しているのか。これだけ大きいシステムだと按分比率が少しずれるだけで大きく数字に影響することが考えられる。資金管理法の四半期決算や各法人の年度決算の際に按分比率の検証を行う方向で監査法人と検討してはどうか。
- 監査法人と検討していく。
- 前倒し実施したシステム改良のうち事業者要望の例が1件しか記述されていないが、他の例も記述した方がよい。
- 説明責任の観点から、自動車所有者・ユーザー向けのわかりやすい資料を作成してもらいたい。

(2) 議題②について

「平成17年度第2四半期決算に係る計算書類（四半期計算書類）について」「平成17年度第2四半期再資源化預託金等特別会計の決算に係る計算書類（四半期計算書類）」「平成17年度第2四半期資金管理料金特別会計の決算に係る計算書類（四半期計算書類）」「平成17年度第2四半期承認・認可済特定再資源化預託金等特別会計の決算に係る計算書類（四半期計算書類）」「口座引落徴収における引落不能分の回収について」に関して、資料4-1～資料4-5（含む別紙）を使用して事務局から説明。各委員から了解された。

- 監査法人による合意された手続きについて、諮問委員会としても要望を出していきたいと考えている。

(3) 議題③について

「平成１７年度第２四半期の再資源化預託金等の運用成果及び資産構成の評価」「証券会社の検証について」に関して、資料５－１～資料５－２（含む別添）を使用して事務局から説明。各委員から了解された。

- 資料５－２は、内部組織としても独立した部門が検証していることを示すために、部門名を記した方がよい。
- 購入する社債の発行会社、選定する証券会社について、環境問題への取り組み姿勢を購入・選定の評価ポイントとしてはどうか。
- まずは実態を把握した上で、こうした評価をする方策を今後の諮問委員会で提示することとしたい。

以上